

令和3年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：国際交流センター

事業担当者の職・氏名：福岡昌子

内線電話番号： 9698

電子メール： fukuoka.cie@mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

「北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ」

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

北京外国語大学: 語学研修&フィールドスタディ(オンライン)

国際交流センター 福岡昌子

(1) 事業概要

中国経済の躍進は目覚ましく、日本と中国をめぐる経済・社会・文化活動は今後も重要である。そこで、本学の学生に在学期間において、中国語や現代中国の状況を知る機会を提供し、将来国際的に活躍する人材を育成することを目的として本事業を企画した。本事業では、①中国語を学ぶ、②現代中国を知る、③協働学習を行って学生同士の交流を図る、④訪問先の都市の文化・社会を知る、を目的として、語学研修およびフィールドスタディを実施した。北京外国語大学の中文系・日文系・弁公室と協力し、中国語(北京語)の講習、日文系学生との交流を図った。また、日中経済協会北京事務所とZoomで繋ぎ、現代中国を学んだ。

(2) 事業の背景・これまでの実績

日本語教育を中心とした国際交流事業の実績は下記の通りである。

- ①「ボランティア日本語教師養成講座 実践:日本語教育」(2004)『2004 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ②『実践:日本語教育 I & II 2007』(I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』、II. 『夏休みの宿題の助っ人:留学生の母語による学習支援』)『2007 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ③「国際交流および日本文化学習のための京都研修―幕末～明治維新を留学生と共に学ぶ―」「三重大学国際交流基金国際交流事業」、40 千円
- ④「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解(日本語ディスカッション)」令和3年度国際交流基金事業、50 千円

(3) 事業内容

(3)-1. 日程、参加者、研修先、研修・交流内容

1) 日程

- I. 8月17日(水)～8月24日(水) 北京外国語大学講師による中国語語学研修
- II. 8月23日(火) 日中経済協会北京事務所所長の講演
- III. 8月22日(月)～8月26日(金) 三重大学の学生と北京外国語大学日本語学科の学生との交流活動

8/15 (月)	8/16 (火)	8/17 (水)	8/18 (木)	8/19 (金)	8/22 (月)	8/23 (火)	8/24 (水)	8/25 (木)	8/26 (金)
一斉休業 ●事前 Zoom 打合せ ・三重大学学生 8月2日(火) 12:10～12:45 ・北京外国語大学学生 8月17日(水) 12:15～12:45 ①日程確認 ②中国語テキスト配布 ③8月26日三重県紹介グループ決め ④参加者のリスト・メールアドレス ⑤アンケート報告 *事前打合せ後送付	一斉休業	9:00～9:30 オリエンテーション ①日程について ②中国語について ③日本語学科との交流方法 ④テーママッチング結果 ⑤中国語の先生のご紹介 9:30～9:55 Yu wensuan 先生、中国語オリエンテーション 10:05～10:55 中国語① 11:05～11:55 中国語② 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語③ 10:05～10:55 中国語④ 11:05～11:55 中国語⑤ 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑥ 10:05～10:55 中国語⑦ 11:05～11:55 中国語⑧ 11:55～12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑨ 10:05～10:55 中国語⑩ 10:55 連絡事項 11:00～11:55 ・北京外国語大学学生と対面式 ①日本語学科の先生のご紹介 一役唯東 先生 ②日本語学科の参加学生 相互に自己紹介 ③グループ検討会の予定 ④テーマ・グループ発表	9:00～10:30 ・グループ検討会(i) ①グループ対面 ②発表内容の検討 メール交換・確認 10:40 Zoom 入室 10:45～11:55 ・日中経済協会北京事務所所長の講演 一川尚徳所長 ・質疑応答 11:55～12:00 連絡事項	9:00～10:10 中国語⑪ テスト(中国語⑩～⑪) 1人5分 10:10～10:30 中国語⑫ フィールドブック まとめ、感想 10:30～12:00 ・グループ検討会(ii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成	9:00 Zoom 入室 ・グループ検討会(iii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成・完成 ・発表者はどうするか? 10:30～11:45 ・視察研修(Zoom): 三重大・研究紹介、伊勢神宮 北京外大紹介、敬語紹介、万里の長城 北京・三重県の紹介(学生発表:PPT or 動画) *総括 ・記念撮影 ・報告書・アンケート提出 ・グループ PPT の提出 11:45～12:00 ・反省会(三重大生のみ) ・報告書の提出(別紙) ・中国語のテスト結果	

図 1. 北京外国語大学: 語学研修および日本語学科との交流日程

2) 参加者

- ・三重大学 11 名：教育学部 2 名（1 年生，2 年生），人文学部 4 名（1 年生 2 名，2 年生），生物資源学部 2 名（1 年生 2 名），医学部 2 名（1 年生 1 名，2 年生 1 名），国際交流センター 1 名，男 3 名女 8 名，タイ，ドイツ留学生を含む。
- ・北京外国語大学 9 名：日本語学科（1 年生 3 名，2 年生 3 名，3 年生 1 名，大学院 2 名），男 3 名女 6 名 *出席率：三重大学 95.5%，北京外国語大学：96.2%

3) 研修先：

北京外国語大学中文学科，北京外国語大学日文学科，日中経済協会北京事務所

4) 担当教員・講演者：

実施責任者：三重大学国際交流センター福岡昌子，北京外国語大学中文学科担当教師：于雯宣先生，日本語学科講師：費曉東先生，日中経済協会北京事務所：川合現所長（講演者）

5) 研修・交流内容

- ①語学研修：北京外国語大学中国語テキスト“Learn Chinese with Me”（Student's Book1）初級場面シラバスを中心として，8 月 17 日～24 日まで 50 分×12 回，最終日に会話テストを実施。
- ②8 月 23 日に日中経済協会北京事務所を訪ね（Zoom），現代中国について学ぶ．質疑応答を行う。
- ③フィールドスタディ：学生が関心のあるテーマに基づき，北京外国語大学の日文系学生とグループを編成し，交流を図る．グループ全員で発表するテーマを決め，発表内容をディスカッションし，最終日に成果をまとめて発表する。
- ④三重大学の学生は，3 グループに分かれて，三重（日本）の地域や文化について紹介をする．北京外国語大学の学生も，3 グループに分かれて，北京（中国）の地域や文化について紹介する。

（4）実施結果

(4)-1. 中国語（北京語）語学研修

事業実施前に，于雯宣先と Zoom で 3 回打合せを行い，指導方法やブレイクアウトロームの使い方について説明した．一日 50 分を 12 コマ実施し，第 1 課「你好」～第 24 課「冬点冷，夏点熱」まで学習した．最終授業で一人ずつ既習範囲の文型について，10 問の会話テストを実施した．中国語会話テストは，三重大学の学生全員が受け，平均点 88.6 点で好成績を得た．



図 2. 中国語研修の Zoom の学習風景

(4)-2. 日中経済協会北京事務所所長の講演会

講演者の北京事務所の川合現所長と Zoom で打合せを行い，本事業の趣旨について説明を行った。「現代中国を知る」の講演内容について，配布許可を得て PPT 資料を紹介した。

日本と中国の公共料金や価格比較，北京の生活において日本にはないもの，寿命や大学初任給など統計データから見る中日比較など，学生には身近な話題から，中国の統治構造や中国流の経済発展システム，日中国交正常化 50 周年への取組，中国との向き合い方という少々難しいテーマへと，わかりやすく「現代中国を知る」についてご講演いただいた．講演の後は，30 分ほどの両大学からの質疑応答があったが，学生には質疑応答の時間が足りなかったという感想がある程の充実した講演だった。

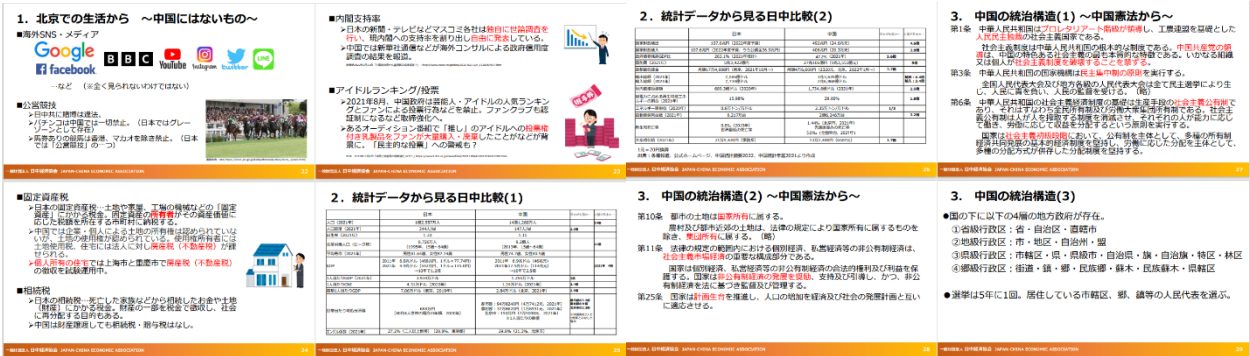


図3. 日中経済協会北京事務所川合現所長の講演 (PPT 資料一部抜粋)

(4)-3. 日本語学科との交流活動

1) 実施前の準備作業：

日本語学科の費暁東先生とは Zoom で打合せを行い、本事業についてご理解および事業実施の協力を得た。その結果、グループごとに日本と中国の文化比較の検討、地域の紹介を行うことにした。両大学の学生には実施前の参加申込書に、どんなテーマで検討したいか第 1～3 希望を書いてもらい、参加者の希望に沿って 6, 7 名ずつの 3 グループを編成した。毎回ブレイクアウトセッションで協議され、以下のテーマが各グループの発表テーマとなった。

・グループ成果発表会

①食文化グループ (三重大学 3+北京外国語大学 3 名)

「日本と中国の料理の味付けの違いについてー辛味と甘味からー」

②ポップカルチャーグループ (三重大学 4+北京外国語大学 3 名) 「番組の比較から見る日本と中国の違いー紅白・バラエティー・ドラマからー」

③文字・文学グループ (三重大学 4+北京外国語大学 3 名) 「中国語と日本語の流行語に関する違い」

2) 各グループの発表内容：

①食文化グループ：

日本と中国の料理に使う調味料の甘味と辛味の違いを調べた。甘味では共通して使用される砂糖を除き、日本のみりんは料理の最中によく使用されるが、中国の甜麵醬は料理の完成後に混ぜたりつけたりする際に使用される。一方、辛味は日本の山椒と中国の花椒を取り上げ、生育地や利用する部位の違いを述べ、山椒は柚子のような柑橘系の香りとマイルドな辛味であるが、麻婆豆腐で使われる花椒は舌がしびれるような辛さを持つことを説明した。



図4. 日本と中国の料理の味付けの違いについてー甘味と辛味からー

②ポップカルチャーグループ

ポップカルチャーグループは、日本と中国のテレビ番組の比較を行った。日本のドラマは中国で人気があり、幼少期からアニメを見てきたので日本のコンテンツ産業に親しく、日本語の字幕が付いているため、日本語を勉強するには最適だと述べた。また、中国のバラエティ番組はトーク番組が主流で、話の上手な番組司会者が場を盛り上げる特徴がある。日本のようなリアクション芸やコントなどを披露することは余りなく、根本的な違いは笑いの文化が異なるのではないかと説明した。



図5. 番組の比較から見る日本と中国の違いー紅白・バラエティー・ドラマからー

③文字・文学グループ

文字・文学グループは、日本と中国の流行語の違いについて調べた。日本では、一人であるのが好きで自分の趣味と生活を大切に、恋愛に時間を費やさない男性を指す「仏男子」という流行語があるが、中国でも「躺平(タンピン)」(「だらっと寝そべる」)という仕事をしないで何も求めないライフスタイルの若者を称する流行語があることが紹介された。両国共に若者の無気力感が注目された。また、Z世代などインターネットの普及やコロナ禍などの影響で、世界で共通した流行語が生まれていると説明した。

図6. 中国語と日本語の流行語に関する違い

(5) 事業のアンケート結果

本事業全体については、「全体的に楽しかった」が三重大学91%、北京外国語大学90%だった。
 回答者：三重大学10/11名、北京外国語大学9/9名)

(5)-1. 中国語(北京語) 語学研修

<感想>

- ・レベルとしては、一年生の第二外国語の授業のレベル感であったが、再度復習できたことに加え、新たな単語や文法を学ぶことができて良かった。また、先生がとても優しく、楽しく勉強を行うことができた。欠席した分を個別に授業を行ってくださった点も良かった。これからもっと中国語を話せるように勉強していきたいと思った。
- ・最後のテストが質問に答える形式なのが良かった。文法などが分かっている、会話などに生かしていないなど改善点を見つけることができた。

- ・グループワークも多く、会話を通じて中国語が学べてよかったと思います。また、大学のテストでは筆記でしたが、ここでは先生との会話のテストだったので、より頭を使うことができたと思います。
- ・普段の大学の授業でまだ習っていない単語や表現をたくさん学ぶことができて非常に良かった。
- ・三重大学の授業の中でも、中国語をとっているのですが、今回の研修では、話すことをテーマにした授業で、たくさんの人と中国語を使ってコミュニケーションすることができて良かったです。

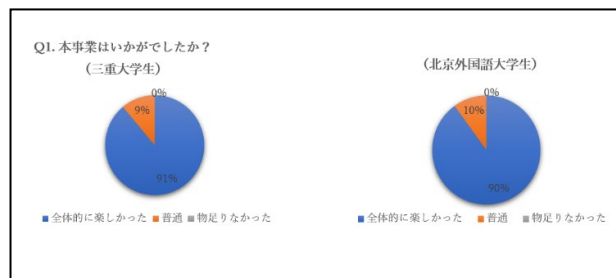


図7. 本事業の全体の感想

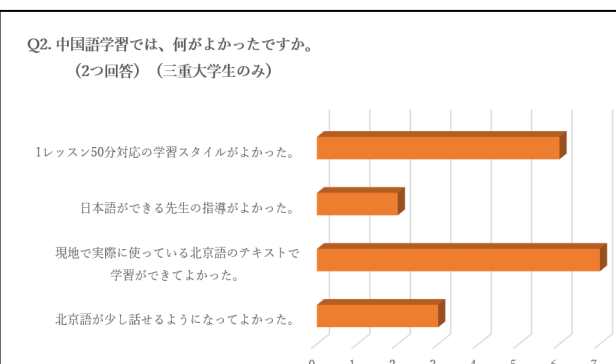
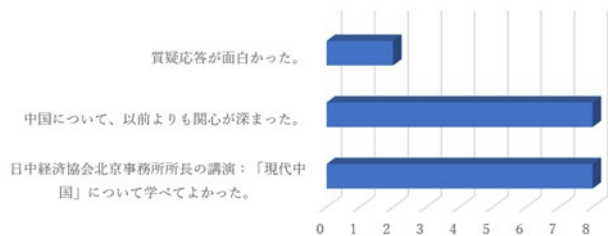


図8. 語学研修の感想

・今まで中国語を全く学んだことがないなかで、終始優しく日本語を交えながら教われたのはとてもよい経験だったと思う。この授業をきっかけにして中国語について学んでいけたらいいと思う。

(5)-2. 日中経済協会北京事務所所長の講演会

Q3. 日中経済協会の講演はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生のみ)



<感想>

・中国に関しては、主に歴史を学ぶことが今まで多かつたため、現在の中国について多くのことを学ぶことができた。特に中国と日本の価格の比較が面白かった。また、質疑応答が活発で、日中それぞれの関心の高さが見られた。

図9. 日中経済協会の講演会の感想

・中国は衛生面などでいい印象を持っていなかったが、日本も規制がなかった時代も同じようなものだったと思った。今後、社会の要求に応じて変化していけばとてもいい国になると感じた。特にデジタル社会化など新しいことを積極的に取り入れているのが素晴らしいと思った。実際に、日本と中国の両国で生活したことがある人の話を聞いたので、両国の違いをよく理解できた。

・はじめは経済について固めなお話だと思っていましたが、中国での生活についてなどのお話が多く、楽しめました。いつか中国に行ってみたくてより思うようになりました。

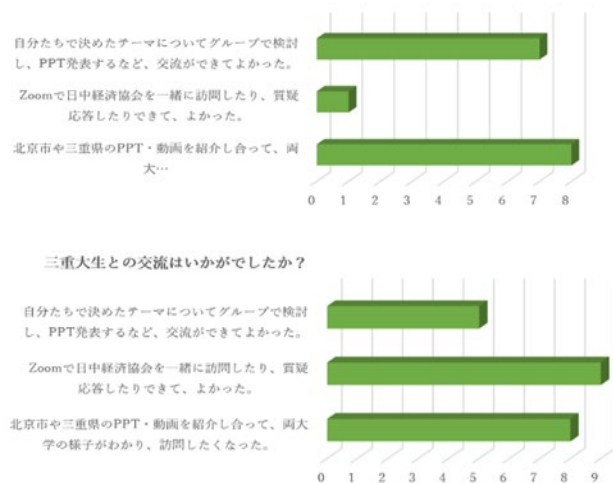
・様々な視点からの話を聞くことができるととても興味深かった。実際に働いている人の考えを聞き、質問ができるのは非常に貴重な機会であった。

・データから見る日中比較が具体的な例を挙げながら、お話をしてくださり、とても分かりやすかったです。特に、今中国では新幹線などの公共交通機関が発達しており、日本よりも比較的安い値段で乗れるという話には驚きました。コロナなどの対策が日本では批判的にとらえられていますが、実際、中国では、そんなに批判的に捉えられていないという話を聞いて、たくさんの情報に触れることが必要だなと感じました。

・「現代中国」を知って最も中国に興味深くなりました。

(5)-3. 日本語学科との交流活動

Q4. 日本語学科との交流はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生)



<感想>

・北京外国語大生の日本語がとても上手で驚いた。また、検討会においては、積極的に話を進めたり、作業に取り組んだりする姿勢に尊敬し、勉強になる部分が多くあった。また、討議だけでなく、お互いの好きな食べ物やドラマ、また趣味や所属している部活など、色々な話もすることができ、とても楽しかった。

・日本で報道される中国に関するニュースはあまりいい印象がなく、中国人とうまく話せるか不安だったが、実際に交流してみると日本人と性質はあまり変わりなかった。偏見を持っているときは実際に自分の目で確かめることが大事だということも学べた。

図10. 日本語学科との交流活動の感想

・北京外国語大学の皆さんと交流ができてよかったです。中国の生活や、文化などを紹介していただき、中国についてこれまでよりも深く理解することができました。また、北京外国語大学の皆さんの日本語が本当に上手で、自分も中国語をもっと磨いて、中国語で話せるようになりたいと感じました。

(6) 事業の意義

(5) で報告した結果から、本事業の意義として次の5点が挙げられる。

- ①本来移動や経費を伴う語学研修であるが、オンラインで実施することによって、コロナ禍においても海外協定校の学生交流も実施することができた。
- ②本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ③昨今の報道により双方の学生が互いの国に対して偏見を持っていたが、本事業の交流活動によってその偏見は払拭され、もっとお互いの国を知るために、訪問や長期留学を希望する声が聞かれた。
- ④日中経済協会北京事務所所長の「現代中国を知る」講演を聞き、双方の学生がそれぞれの視点から現代中国の知識を得ることができた。
- ⑤協定校との国際交流と学生交流を持続発展させることができた。

(7) 事業の発展性

事業の発展性として、下記の5点が考えられるが、ポストコロナにおいてもオンラインによる本事業の継続発展を検討したい。

- ①協定校との国際交流を持続発展させることができる。
- ②日本人学生の語学研修を含め、海外留学支援を推進できる。
- ③本事業を継続させることによって、三重大学（大学院）への留学生の獲得に貢献できる。
- ④文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開できる。
- ⑤世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

(8) 中期目標・中期計画における位置づけ

下記の第4期中期目標・中期計画の「教育研究の質の向上に関する事項」(8)について、該当する事業であったと思われる。

- ①文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開できた。
- ②優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させることができた。
- ③様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げることができた。
- ④グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、オンラインではあったが、在学中に海外留学を体験させることができた。

5. 事業に係る経費執行結果

事業費		事業費の内訳	
		助成金額	自己負担額
①+② (千円)		① (千円)	② (千円)
経費区分	金額 (千円)	積算内訳	
1) 旅費	50,000 円	北京外国語大学語学研修費	
2) 消耗品			
3) 役務			
4) 謝金			
合計	助成分 50,000 円		

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ(オンライン)

国際交流センター 福岡昌子

(1) 事業概要

中国経済の躍進は目覚ましく、日本と中国をめぐる経済・社会・文化活動は今後も重要である。そこで、本学の学生に在学期間において、中国語や現代中国の状況を知る機会を提供し、将来国際的に活躍する人材を育成することを目的として本事業を企画した。本事業では、①中国語を学ぶ、②現代中国を知る、③協働学習を行って学生同士の交流を図る、④訪問先の都市の文化・社会を知る、を目的として、語学研修およびフィールドスタディを実施した。北京外国語大学の中文系・日文系・弁公室と協力し、中国語（北京語）の講習、日文系学生との交流を図った。また、日中経済協会北京事務所とZoomで繋ぎ、現代中国を学んだ。

(2) 事業の背景・これまでの実績

日本語教育を中心とした国際交流事業の実績は下記の通りである。

- ①「ボランティア日本語教師養成講座 実践：日本語教育」（2004）『2004 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。』
②『実践：日本語教育 I & II 2007』（I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』、II. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』）『2007 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。』
③「国際交流および日本文化学習のための京都研修－幕末～明治維新を留学生と共に学ぶ－」「三重大学国際交流基金国際交流事業」、40 千円
④「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション）」令和3年度国際交流基金事業、50 千円

(3) 事業内容

(3)-1. 日程、参加者、研修先、研修・交流内容

1) 日程

- I. 8月17日（水）～8月24日（水）北京外国語大学講師による中国語語学研修
II. 8月23日（火）日中経済協会北京事務所所長の講演
III. 8月22日（月）～8月26日（金）三重大学の学生と北京外国語大学日本語学科の学生との交流活動

Table with 9 columns representing dates from 8/15 to 8/26. It details daily activities, Zoom sessions, and group discussions. Key events include a Zoom meeting on 8/15, a lecture by the NIEA Beijing office on 8/23, and a group discussion on 8/24.

図1. 北京外国語大学：語学研修および日本語学科との交流日程

2) 参加者

- ・三重大学 11 名：教育学部 2 名（1 年生，2 年生），人文学部 4 名（1 年生 2 名，2 年生），生物資源学部 2 名（1 年生 2 名），医学部 2 名（1 年生 1 名，2 年生 1 名），国際交流センター 1 名，男 3 名女 8 名，タイ，ドイツ留学生を含む。
- ・北京外国語大学 9 名：日本語学科（1 年生 3 名，2 年生 3 名，3 年生 1 名，大学院 2 名），男 3 名女 6 名 *出席率：三重大学 95.5%，北京外国語大学：96.2%

3) 研修先：

北京外国語大学中文学科，北京外国語大学日文学科，日中経済協会北京事務所

4) 担当教員・講演者：

実施責任者：三重大学国際交流センター福岡昌子，北京外国語大学中文学科担当教師：于雯宣先生，日本語学科講師：費曉東先生，日中経済協会北京事務所：川合現所長（講演者）

5) 研修・交流内容

- ①語学研修：北京外国語大学中国語テキスト“Learn Chinese with Me”（Student's Book1）初級場面シラバスを中心として，8 月 17 日～24 日まで 50 分×12 回，最終日に会話テストを実施。
- ②8 月 23 日に日中経済協会北京事務所を訪ね（Zoom），現代中国について学ぶ．質疑応答を行う。
- ③フィールドスタディ：学生が関心のあるテーマに基づき，北京外国語大学の日文系学生とグループを編成し，交流を図る．グループ全員で発表するテーマを決め，発表内容をディスカッションし，最終日に成果をまとめて発表する。
- ④三重大学の学生は，3 グループに分かれて，三重（日本）の地域や文化について紹介をする．北京外国語大学の学生も，3 グループに分かれて，北京（中国）の地域や文化について紹介する。

（4）実施結果

(4)-1. 中国語（北京語）語学研修

事業実施前に，于雯宣先と Zoom で 3 回打合せを行い，指導方法やブレイクアウトロームの使い方について説明した．一日 50 分を 12 コマ実施し，第 1 課「你好」～第 24 課「冬点冷，夏点熱」まで学習した．最終授業で一人ずつ既習範囲の文型について，10 問の会話テストを実施した．中国語会話テストは，三重大学の学生全員が受け，平均点 88.6 点で好成績を得た．



図 2. 中国語研修の Zoom の学習風景

(4)-2. 日中経済協会北京事務所所長の講演会

講演者の北京事務所の川合現所長と Zoom で打合せを行い，本事業の趣旨について説明を行った。「現代中国を知る」の講演内容について，配布許可を得て PPT 資料を紹介した。

日本と中国の公共料金や価格比較，北京の生活において日本にはないもの，寿命や大学初任給など統計データから見る中日比較など，学生には身近な話題から，中国の統治構造や中国流の経済発展システム，日中国交正常化 50 周年への取組，中国との向き合い方という少々難しいテーマへと，わかりやすく「現代中国を知る」についてご講演いただいた．講演の後は，30 分ほどの両大学からの質疑応答があったが，学生には質疑応答の時間が足りなかったという感想がある程の充実した講演だった。



図3. 日中経済協会北京事務所川合現所長の講演 (PPT 資料一部抜粋)

(4)-3. 日本語学科との交流活動

1) 実施前の準備作業 :

日本語学科の費暁東先生とは Zoom で打合せを行い、本事業についてご理解および事業実施の協力を得た。その結果、グループごとに日本と中国の文化比較の検討、地域の紹介を行うことにした。両大学の学生には実施前の参加申込書に、どんなテーマで検討したいか第 1~3 希望を書いてもらい、参加者の希望に沿って 6, 7 名ずつの 3 グループを編成した。毎回ブレイクアウトセッションで協議され、以下のテーマが各グループの発表テーマとなった。

・グループ成果発表会

①食文化グループ (三重大学 3+北京外国語大学 3 名)

「日本と中国の料理の味付けの違いについてー辛味と甘味からー」

②ポップカルチャーグループ (三重大学 4+北京外国語大学 3 名) 「番組の比較から見る日本と中国の違いー紅白・バラエティー・ドラマからー」

③文字・文学グループ (三重大学 4+北京外国語大学 3 名) 「中国語と日本語の流行語に関する違い」

2) 各グループの発表内容 :

①食文化グループ :

日本と中国の料理に使う調味料の甘味と辛味の違いを調べた。甘味では共通して使用される砂糖を除き、日本のみりんは料理の最中によく使用されるが、中国の甜麺醬は料理の完成後に混ぜたりつけたりする際に使用される。一方、辛味は日本の山椒と中国の花椒を取り上げ、生育地や利用する部位の違いを述べ、山椒は柚子のような柑橘系の香りとマイルドな辛味であるが、麻婆豆腐で使われる花椒は舌がしびれるような辛さを持つことを説明した。



図4. 日本と中国の料理の味付けの違いについてー甘味と辛味からー

②ポップカルチャーグループ

ポップカルチャーグループは、日本と中国のテレビ番組の比較を行った。日本のドラマは中国で人気があり、幼少期からアニメを見てきたので日本のコンテンツ産業に親しく、日本語の字幕が付いているため、日本語を勉強するには最適だと述べた。また、中国のバラエティ番組はトーク番組が主流で、話の上手な番組司会者が場を盛り上げる特徴がある。日本のようなリアクション芸やコントなどを披露することは余りなく、根本的な違いは笑いの文化が異なるのではないかと説明した。



図5. 番組の比較から見る日本と中国の違いー紅白・バラエティー・ドラマからー

③文字・文学グループ

文字・文学グループは、日本と中国の流行語の違いについて調べた。日本では、一人であるのが好きで自分の趣味と生活を大切に、恋愛に時間を費やさない男性を指す「仏男子」という流行語があるが、中国でも「躺平(タンピン)」(「だらっと寝そべる」)という仕事をしないで何も求めないライフスタイルの若者を称する流行語があることが紹介された。両国共に若者の無気力感が注目された。また、Z世代などインターネットの普及やコロナ禍などの影響で、世界で共通した流行語が生まれていると説明した。



図6. 中国語と日本語の流行語に関する違い

(5) 事業のアンケート結果

本事業全体については、「全体的に楽しかった」が三重大学 91%、北京外国語大学 90%だった。
 回答者：三重大学 10/11 名、北京外国語大学 9/9 名)

(5)-1. 中国語(北京語) 語学研修

<感想>

- ・レベルとしては、一年生の第二外国語の授業のレベル感であったが、再度復習できたことに加え、新たな単語や文法を学ぶことができて良かった。また、先生がとても優しく、楽しく勉強を行うことができた。欠席した分を個別に授業を行ってくださった点も良かった。これからもっと中国語を話せるように勉強していきたいと思った。
- ・最後のテストが質問に答える形式なのが良かった。文法などが分かっている、会話などに生かしていないなど改善点を見つけることができた。

- ・グループワークも多く、会話を通じて中国語が学べてよかったと思います。また、大学のテストでは筆記でしたが、ここでは先生との会話のテストだったので、より頭を使うことができたと思います。
- ・普段の大学の授業でまだ習っていない単語や表現をたくさん学ぶことができて非常に良かった。
- ・三重大学の授業の中でも、中国語をとっているのですが、今回の研修では、話すことをテーマにした授業で、たくさんの人と中国語を使ってコミュニケーションすることができて良かったです。

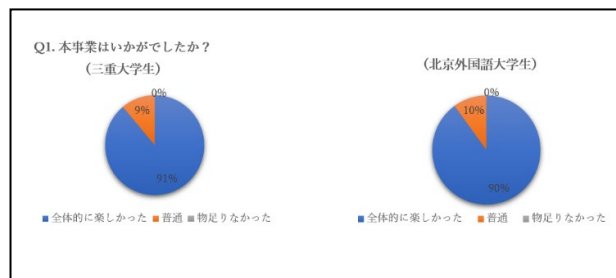


図7. 本事業の全体の感想

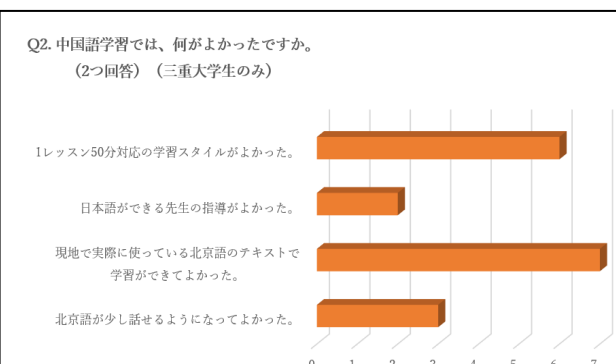
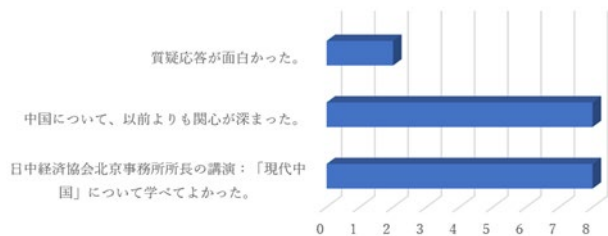


図8. 語学研修の感想

・今まで中国語を全く学んだことがないなかで、終始優しく日本語を交えながら教われたのはとてもよい経験だったと思う。この授業をきっかけにして中国語について学んでいけたらいいと思う。

(5)-2. 日中経済協会北京事務所所長の講演会

Q3. 日中経済協会の講演はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生のみ)



<感想>

・中国に関しては、主に歴史を学ぶことが今まで多かったため、現在の中国について多くのことを学ぶことができた。特に中国と日本の価格の比較が面白かった。また、質疑応答が活発で、日中それぞれの関心の高さが見られた。

図9. 日中経済協会の講演会の感想

・中国は衛生面などでいい印象を持っていなかったが、日本も規制がなかった時代も同じようなものだったと思った。今後、社会の要求に応じて変化していけばとてもいい国になると感じた。特にデジタル社会化など新しいことを積極的に取り入れているのが素晴らしいと思った。実際に、日本と中国の両国で生活したことがある人の話を聞いたので、両国の違いをよく理解できた。

・はじめは経済について固めなお話だと思っていましたが、中国での生活についてなどのお話が多く、楽しめました。いつか中国に行ってみたくてより思うようになりました。

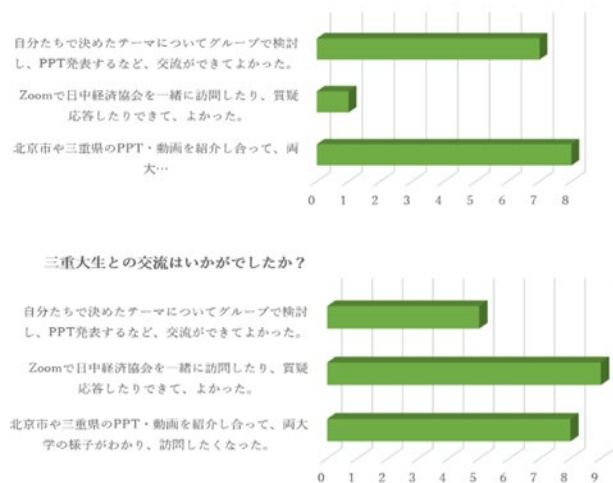
・様々な視点からの話を聞くことができるととても興味深かった。実際に働いている人の考えを聞き、質問ができるのは非常に貴重な機会であった。

・データから見る日中比較が具体的な例を挙げながら、お話をしてくださり、とても分かりやすかったです。特に、今中国では新幹線などの公共交通機関が発達しており、日本よりも比較的安い値段で乗れるという話には驚きました。コロナなどの対策が日本では批判的にとらえられていますが、実際、中国では、そんなに批判的に捉えられていないという話を聞いて、たくさんの情報に触れることが必要だなと感じました。

・「現代中国」を知って最も中国に興味深くなりました。

(5)-3. 日本語学科との交流活動

Q4. 日本語学科との交流はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生)



<感想>

・北京外国語大生の日本語がとても上手で驚いた。また、検討会においては、積極的に話を進めたり、作業に取り組んだりする姿勢に尊敬し、勉強になる部分が多くあった。また、討議だけでなく、お互いの好きな食べ物やドラマ、また趣味や所属している部活など、色々な話もすることができ、とても楽しかった。

・日本で報道される中国に関するニュースはあまりいい印象がなく、中国人とうまく話せるか不安だったが、実際に交流してみると日本人と性質はあまり変わりなかった。偏見を持っているときは実際に自分の目で確かめることが大事だということも学べた。

図10. 日本語学科との交流活動の感想

・北京外国語大学の皆さんと交流ができてよかったです。中国の生活や、文化などを紹介していただき、中国についてこれまでよりも深く理解することができました。また、北京外国語大学の皆さんの日本語が本当に上手で、自分も中国語をもっと磨いて、中国語で話せるようになりたいと感じました。

(6) 事業の意義

(5) で報告した結果から、本事業の意義として次の5点が挙げられる。

- ①本来移動や経費を伴う語学研修であるが、オンラインで実施することによってコロナ禍においても海外協定校の学生交流も実施することができた。
- ②本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ③昨今の報道により双方の学生が互いの国に対して偏見を持っていたが、本事業の交流活動によってその偏見は払拭され、もっとお互いの国を知るために、訪問や長期留学を希望する声が聞かれた。
- ④日中経済協会北京事務所所長の「現代中国を知る」講演を聞き、双方の学生がそれぞれの視点から現代中国の知識を得ることができた。
- ⑤協定校との国際交流と学生交流を持続発展させることができた。

(7) 事業の発展性

事業の発展性として、下記の5点が考えられるが、ポストコロナにおいてもオンラインによる本事業の継続発展を検討したい。

- ①協定校との国際交流を持続発展させることができる。
- ②日本人学生の語学研修を含め、海外留学支援を推進できる。
- ③本事業を継続させることによって、三重大学（大学院）への留学生の獲得に貢献できる。
- ④文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開できる。
- ⑤世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

(8) 中期目標・中期計画における位置づけ

下記の第4期中期目標・中期計画の「教育研究の質の向上に関する事項」(8)について、該当する事業であったと思われる。

- ①文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開できた。
- ②優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させることができた。
- ③様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げることができた。
- ④グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、オンラインではあったが、在学中に海外留学を体験させることができた。

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Online Language Training & Field Study:

-Chinese training at Beijing Foreign Studies University and student exchange
With the Japanese department-

Fukuoka Masako (Center for International Education & Research)

(1) Implementation content:

The rapid progress of the Chinese economy is remarkable, and so economic, social, and cultural activities between Japan and China will continue to be important in the future. Therefore, the purpose of this program is to provide students at our university with an opportunity to learn about the Chinese language and modern China during their studies, and to develop human resources who, in future, will play an active role internationally. The purpose of this project is to (1) learn Chinese, (2) learn about modern China, (3) promote interaction among students through collaborative learning, and (4) learn about the culture and society of the cities we visit. In cooperation with Beijing Foreign Studies University's Chinese and Japanese departments and the administrative office, we planned Chinese (Mandarin) classes and exchanges with Japanese students. In addition, I learned about modern China by connecting with the Japan-China Economic Association Beijing office via Zoom.

(2) Implementation details

(2)-1. Schedule, participants, training destination, content of training/exchange

1) Schedule

I. August 17 (Wednesday) to August 24 (Wednesday) Chinese language training by a lecturer at Beijing Foreign Studies University

II. August 23 (Tuesday) Lecture by the Director of the Beijing Office of the Japan-China Economic Association

III. August 22 (Monday) to August 26 (Friday) Exchange activities between Mie University students and Beijing Foreign Studies University Japanese Department students

8/15 (月)	8/16 (火)	8/17 (水)	8/18 (木)	8/19 (金)	8/22 (月)	8/23 (火)	8/24 (水)	8/25 (木)	8/26 (金)
一斉休業 ●事前 Zoom 打合せ ・三重大学学生 8月2日(火) 12:10~12:45 ・北京外国語大学学生 8月17日(水) 12:15~12:45 ①日報確認 ②中国語テキスト 配布 ③8月26日三重大報 告グループ決め ④参加者のリスト・メ ールアドレス ⑤アンケート報告 *事前打合せ後送付	一斉休業	9:00~9:30 オリエンテーション ①日程について ②中国語について ③日本語学科との交際方 法 ④テーママッチング結果 ⑤中国語の先生のご紹介 9:30~9:55 Yu wenxuan 先生、中国語 オリエンテーション 10:05~10:55 中国語① 11:05~11:55 中国語② 11:55~12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05~9:55 中国語③ 10:05~10:55 中国語④ 11:05~11:55 中国語⑤ 11:55~12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05~9:55 中国語⑥ 10:05~10:55 中国語⑦ 11:05~11:55 中国語⑧ 11:55~12:00 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05~9:55 中国語⑨ 10:05~10:55 中国語⑩ 10:55 連絡事項 11:00~11:55 ・北京外国語大学学生と 対面式 ①日本語学科の先生のご 紹介 一費曉東 先生一 ②日本語学科の参加学生 相互に自己紹介 ③グループ検討会の予定 ④テーマ・グループ発表	9:00~10:30 ・グループ検討会 (i) ①グループ対面 ②発表内容の検討 メール交換・確認 10:40 Zoom 入室 10:45~11:55 ・日中経済協会北京事務 所所長の講演 一川合規所長 ・質疑応答 11:55~12:00 連絡事項	9:00~10:10 中国語⑪ 1人5分 10:10~10:30 中国語⑫ フィードバック まとめ、感想 10:30~12:00 ・グループ検討会 (ii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成	9:00 Zoom 入室 ・グループ検討会 (iii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成・完成 ・発表者はどうするか? 10:30~11:45 ・懇話研修 (Zoom): 三重大・研究紹介、伊勢神 宮 北京外大紹介、故宮紹介、 万里の長城 北京・三重県の紹介(学生 発表:PPT or 動画) *総括 ・記念撮影 ・報告書・アンケート提出 ・グループPPTの提出 11:45~12:00 ・反省会(三重大生のみ) ・報告書の提出(別紙) ・中国語のテスト結果	9:00 Zoom 入室 9:05~10:30 ・グループ成果発表会 9:05~9:25 Aグループ 9:25~9:45 Bグループ 9:45~10:05 Cグループ

Figure 1. Beijing Foreign Studies University: Language training and exchange schedule with the Japanese Department

2) Participants

・ Mie University 11 students: Faculty of Education 2 (1st and 2nd year students), Faculty of Humanities 4 (2 1st and 2nd year students), Faculty of Bioresources 2 (2 first year students), Faculty of Medicine 2 (1st year students) 1 student, 1 sophomore), 1 International Exchange Center, 3 males and 8 females, including students from Thailand and Germany.

· Beijing University of Chinese Studies 9: Department of Japanese (3 first-year students, 3 second-year students, 1 third-year student, 2 graduate students), 3 males and 6 females *Attendance rate: Mie University 95.5%, Beijing Foreign Languages Universities: 96.2%

3) Training destination:

Department of Chinese Literature, Beijing Foreign Studies University, Department of Japanese Literature, Beijing Foreign Studies University, Beijing Office of the Japan-China Economic Association

4) Teachers/Lecturers: Person in charge:

International Exchange Center, Mie University: Prof. Masako Fukuoka, Lecturer of the Japanese Language Department: Asst. Prof. Fei Xiaodong, Japan-China Economic Association Beijing Office: Current Director Mr. Gen Kawai (lecturer)

5) Contents of training and exchange

①Language training: Beijing Foreign Studies University Chinese textbook “Learn Chinese with Me” (Student's Book 1) Focusing on the beginner level syllabus, from August 17th to 24th, a conversation test was conducted 12 times for 50 minutes, and on the final day.

②Visited the Japan-China Economic Association Beijing office (Zoom) on August 23 and learned about modern China. Q&A session.

③Field study: Based on the themes that students are interested in, we formed groups with Japanese students from Beijing Foreign Studies University and promoted exchanges. All members of the group decided on a theme to present, discussed the content of the presentation, and presented the results on the final day.

(3) Implementation results

(3)-1. Chinese (Mandarin) language training

Before the implementation of the project, we had three meetings with Yu Wenxuan via Zoom to explain the teaching method and how to use the breakout room. She practiced 12 sessions of 50 minutes a day and studied from Lesson 1 "We like you" to Lesson 24 "Cool in winter, hot in summer". In the final class, each student



Figure 2. Zoom learning scene of Chinese training

was given a 10-question conversation test on the sentence patterns they had already learned. All the students of Mie University took the Chinese conversation test and obtained good results with an average score of 88.6 points.

(3)-2. Lecture by the Director of the Beijing Office of the Japan-China Economic Association

We had a Zoom meeting with the presenter, Mr. Kawai, the current director of the Beijing office, and explained the purpose of this project. Regarding the contents of the lecture "Understanding Modern China", I introduced the PTT material with distribution permission. A comparison of public utility charges and prices between Japan and China, things about life in Beijing that Japan does not have, comparisons between China and Japan based on statistical data such as life expectancy and starting wages at universities, etc. He gave an easy-to-understand lecture on "Knowing Modern China" on somewhat difficult themes such as the economic development system of China, efforts toward the 50th anniversary of the normalization of diplomatic relations between Japan and China, and how to deal with China. After the lecture, there was a Q&A session from both universities for about 30 minutes.



Figure 3. Speech by Mr. Kawai, current director of the Japan-China Economic Association Beijing Office (excerpt from PPT material)

(3)-3. Exchange activities with the Japanese language department

1) Preparatory work before implementation:

I had a Zoom meeting with Professor Fei Xiaodong of the Japanese Language Department and obtained his understanding and cooperation in implementing this project. As a result, we decided to examine the cultural comparison between Japan and China and introduce the region for each group. Students from both universities were asked to write their 1st to 3rd preferences on the application form before the event, and three groups of 6 or 7 students were formed according to the participants' preferences. Discussions were held in breakout sessions each time, and the following themes were the presentation themes for the groups.

· Group results presentation

- ① Food Culture Group (3 from Mie University + 3 from Beijing Foreign Studies University) "About the difference in seasonings between Japanese and Chinese cuisine - from spiciness and sweetness -"
- ② Pop culture group (4 students from Mie University + 3 students from Beijing Foreign Studies University) "Differences between Japan and China as seen from a comparison of programs - From red and white, variety, drama -"
- ③ Letters/Literature Group (4 students from Mie University + 3 students from Beijing Foreign Studies University) "Differences in buzzwords between Chinese and Japanese"

2) Presentation content of each group:

① Food culture group: We investigated the difference in sweetness and spiciness of seasonings used in Japanese and Chinese cuisine. Except for sugar, which is commonly used in amami, Japanese mirin is often used during cooking, while Chinese sweet bean paste is used when mixing or dipping after cooking is completed. On the other hand, for spiciness, Japanese sansho and Chinese sansho are discussed, and the differences in their habitat and parts used are discussed noting that it has a numbing spiciness to the tongue.



Figure 4. About the difference in seasoning between Japanese and Chinese cuisine -from sweetness and spiciness-

② Pop culture group: The Pop Culture Group compared Japanese and Chinese TV programs. The presenter said that Japanese dramas are popular in China, and that he has been watching anime since childhood, so he is

familiar with the Japanese content industry. Variety programs in China are mainly talk shows, and the basis is that the program host, who is good at talking, excites the audience. He explained that the fundamental difference is the culture of comedy, as there are not many reaction arts or skits like in Japan.

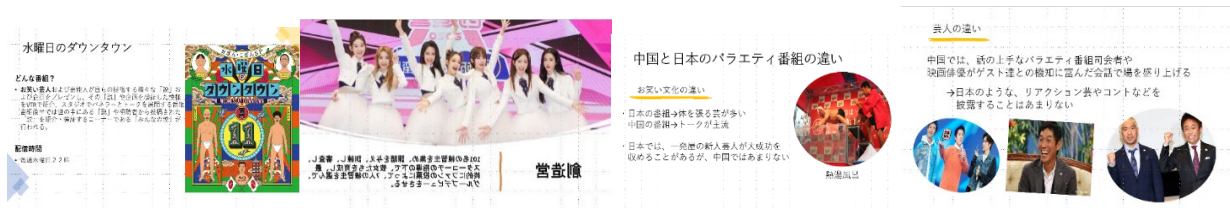


Figure 5. Differences Between Japan and China Seen from a Comparison of Programs -From Kouhaku, Variety, and Dramas-

③ Letters and Literature Group The letters/literature group investigated the differences between Japanese and Chinese buzzwords. In Japan, there is a buzzword called "Buddha boy," which refers to a man who likes to be alone, values his hobbies and life, and does not spend time on romantic relationships. We learned that there is a buzzword that refers to young people who do not work and do not want anything. In both countries, young people's sense of helplessness was noticed. In addition, the presenter explained that common buzzwords have been created around the world due to the spread of the Internet such as Generation Z and the impact of the Corona virus pandemic.



Figure 6. Differences in buzzwords between Chinese and Japanese

(4) Business questionnaire results

About this project as a whole, "Overall it was fun" 91% at Mie University and 90% at Beijing Foreign Studies University. (Respondents: Mie University 10/11, Beijing Foreign Studies University 9/9)

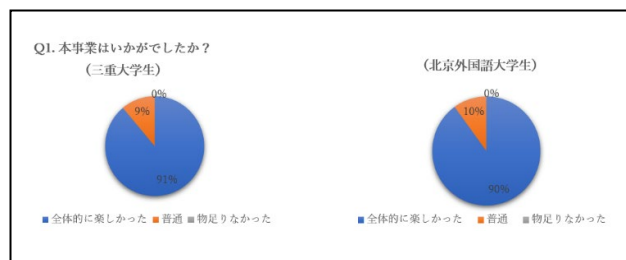


Figure 7. Overall impression of this project

(4)-1. Chinese (Mandarin) language training

<Impression> · As for the level, it felt like the level of a first-year second foreign language class, but in addition to being able to review it, it was good to be able to learn new words and grammar. In addition, the teacher was very kind and I was able to study happily. It was also good that I was able to attend individual classes when I was absent. From now on, I want to study so that I can speak Chinese more.

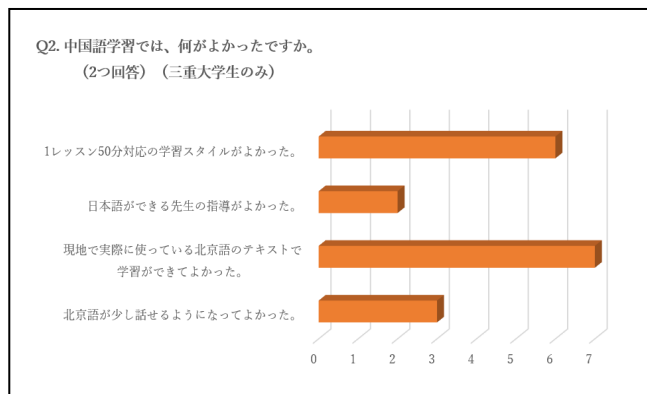


Figure 8. Impressions of language training

· It was good that the final test was in the form of answering questions. Even if I knew grammar, I was able to find areas for improvement, such as not being able to

make use of it in conversation.

· There was a lot of group work, and I think it was good that I was able to learn Chinese through conversation. Also, I think that I was able to use my brain more because the university test was written, but this time it was a conversation test with the teacher.

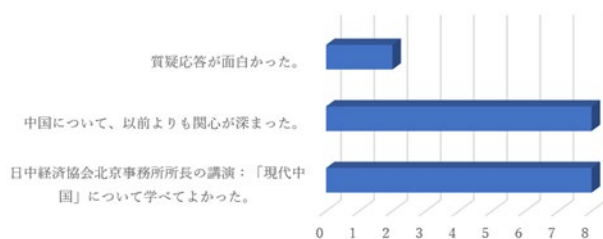
· It was very good that I was able to learn many words and expressions that I had not yet learned in my usual university classes.

· Among the classes at Mie University, I take Chinese, but in this training, I was able to communicate with many people using Chinese in a class with the theme of speaking.

· I had never learned Chinese before, so I think it was a very good experience for me to be able to learn Chinese from beginning to end while being kindly mixed with Japanese students. I hope that this class will be a good opportunity to learn Chinese.

(4)-2. Lecture by the Director of the Beijing Office of the Japan-China Economic Association

Q3. 日中経済教科の講演はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生のみ)



<Impression>

· I was able to learn a lot about present-day China because I had studied history. It was especially interesting to compare prices in China and Japan. In addition, the question-and-answer session was lively, showing a high level of interest in both Japan and China.

Figure 9. Impressions of the Japan-China Economic Association Lecture

· I didn't have a good impression of China in terms of hygiene, but I thought it was the same as in Japan when there were no regulations. In the future, I felt that it would be a very good country if it changes in response to the demands of society. In particular, I thought it was wonderful that they actively incorporated new things such as digitalization. Actually, I was able to understand the difference between the two countries because I was able to hear from someone who had lived in both Japan and China.

· At first, I thought it was a solid talk about the economy, but there were many stories about life in China, and I enjoyed it. It made me want to go to China someday.

· It was very interesting to hear stories from various viewpoints. It was a very valuable opportunity to hear the thoughts of people who are actually working in China and to be able to ask questions.

· It was very easy to understand because the presenter gave specific examples of comparisons between Japan and China based on data. In particular, I was surprised to hear that public transportation such as the Shinkansen (bullet train) is well-developed in China, and that it is relatively cheaper than in Japan. In Japan, countermeasures against COVID-19 are viewed critically, but in China, they are not viewed critically to the same extent.

· I became very interested in China when I learned about "Modern China".

(4)-3. Exchange activities with the Japanese language department

<Impressions>

・ I was surprised at how good the Japanese of the Beijing Foreign Studies University students was. In addition, I respected the protocol of proactively advancing the discussion and working on the key issues at the review meeting. There were many aspects that I could learn from. In addition to discussions, we were able to talk about our favorite foods, dramas, hobbies, club activities, etc., and it was a lot of fun.

・ The news about China reported in Japan did not give me a very good impression, and I was worried about whether I would be able to communicate well with Chinese people. I learned that it is important to see things with your own eyes when you have prejudices.

・ I am glad that I was able to interact with everyone

from Beijing Foreign Studies University. I was able to understand Chinese life and culture more deeply than before. Also, everyone at Beijing Foreign Studies University speaks really good Japanese.

(5) Significance of business

Based on the results reported in (4), the following five points can be cited as the significance of this project.

- ① Originally, language training entailed transportation and expenses, but by conducting it online, we were able to implement student exchanges with overseas partner universities even during the Corona virus crisis.
- ② I was able to contribute to mutual exchange and cross-cultural understanding between the students of our university and those of our partner universities.
- ③ Due to recent reports, students from both sides had prejudice against each other's country, but through the exchange activities of this project, that prejudice was dispelled, and voices were heard asking for visits and long-term study abroad in order to learn more about each other's countries.
- ④ Listening to the lecture "Understanding Modern China" by the Director of the Beijing Office of the Japan-China Economic Association and from students from both sides from their respective perspectives I was able to acquire knowledge of modern China.
- ⑤ I was able to sustainably develop international exchanges and student exchanges with partner universities.

(6) Business development potential

We can consider the following five points as business development possibilities, and we would like to consider the continued development of this business online even in the post-corona era.

- ① Sustainable development of international exchange with partner universities.
- ② Promote support for studying abroad, including language training for Japanese students.
- ③ Continuation of this project will contribute to attracting international students to Mie University (graduate school).
- ④ International co-educational COIL classes can be developed in which students from different cultures and languages participate.
- ⑤ We can develop global human resources who can play an active role in the world.

Q4. 日本語学科との交流はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生)

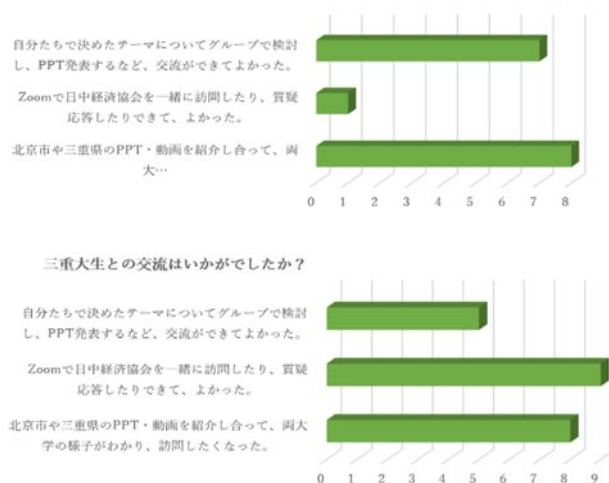


Figure 10. Impressions of exchange activities with the Japanese language department

⑥ Positioning in mid-term goals and mid-term plans it seems that this project corresponds to the 4th medium-term goal/medium-term plan "Items related to the improvement of the quality of education and research"

(7) Relationship with the 4th Mid-Term Target/Medium-Term Plan

① I was able to develop an international co-educational COIL class in which students with different cultures and languages participate.

② In order to strategically acquire and educate excellent international students, we were able to enhance the Japanese language education program.

③ I was able to broaden the students' perspectives and thinking through interaction with people with various backgrounds.

④ In order to develop human resources who have a global perspective and can play an active role internationally, I was able to experience studying abroad while I was at school, even though it was online.